

P I a n

D o

S e e

学校と保護者の連携を強化しよう

朝日町教育委員会

教育委員長 吉 江 貞 夫

我が家の前を、五箇庄小学校の子どもたちが集団登校して行くのを毎日見送っています。子どもたちに「おはよう」と声を掛けると、元気よく一斉に「おはようございます」と返ってきます。子どもたちが毎日元気で、家族に送り出してもらい登校する姿を楽しく見えています。

一方、こども110番の家をはじめ、子ども安全パトロール隊「パトロール中」のステッカーを貼った車、さわやか運動などを通して子どもたちをしっかりと地域全体で見守っておりますが、こうせざると得ない社会となったことを大変寂しく思います。最近、マスコミで取り上げられている給食費未納等の保護者の考えを理解できない面も多々あります。

また、ある統計数字によると、子どもが親を信頼する割合より、子どもたちが親に信頼されていると思う割合が少ないとの結果を見ると、親子のコミュニケーションがうまくいっているのかと疑問に思うことがあります。保護者は子どもたちを思い一生懸命になっているけれども、子どもたちにその思いが伝わっていない面があるように思われてなりません。

教育の基本は家庭にあると思いますが、世間では家庭の教育力が低下しているのではとの指摘があります。家庭の教育力の向上を願わずにはられません。子どもたちの発達には知・徳・体のバランスが大切だと思います。それには、学校、家庭、地域の総合的連携が必要であると思いますが、平成14年度の学校完全五日制を期してその姿が少し変わってきたように思われます。ゆとり教育を掲げ、授業時間数の縮小・指導内容の縮小という大きな変化をもたらしましたが、今日また、学力低下等を理由に、授業時間数の増加・指導内容の増加が決定されています。こうした変化を、学校側は理解し対応しようとしています。保護者や地域はどれだけ理解しているかを考えた場合、学校側から保護者に十分に理解してもらえるようにはたらきかけていただきたいと思えます。

学習指導要領では、「生きる力」の育成が理念として継続されましたが「生きる力」の意味をどう理解すればよいのでしょうか。中教審答申（1996年）で「生きる力」とは、「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。」と説明しています。これを保護者にそのまま伝えても納得は得られないのではないのでしょうか。

学校は、保護者に対し「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体力」についての経営方針や教育課程の特徴等を説明し理解してもらおう工夫が重要だと思います。そうすることにより、学校と家庭の連携がなされ、一体感が生まれてくるものだと思います。

先生方も大変な時期を迎えておられますが、子どもたちの将来のためにご尽力いただければと願っております。